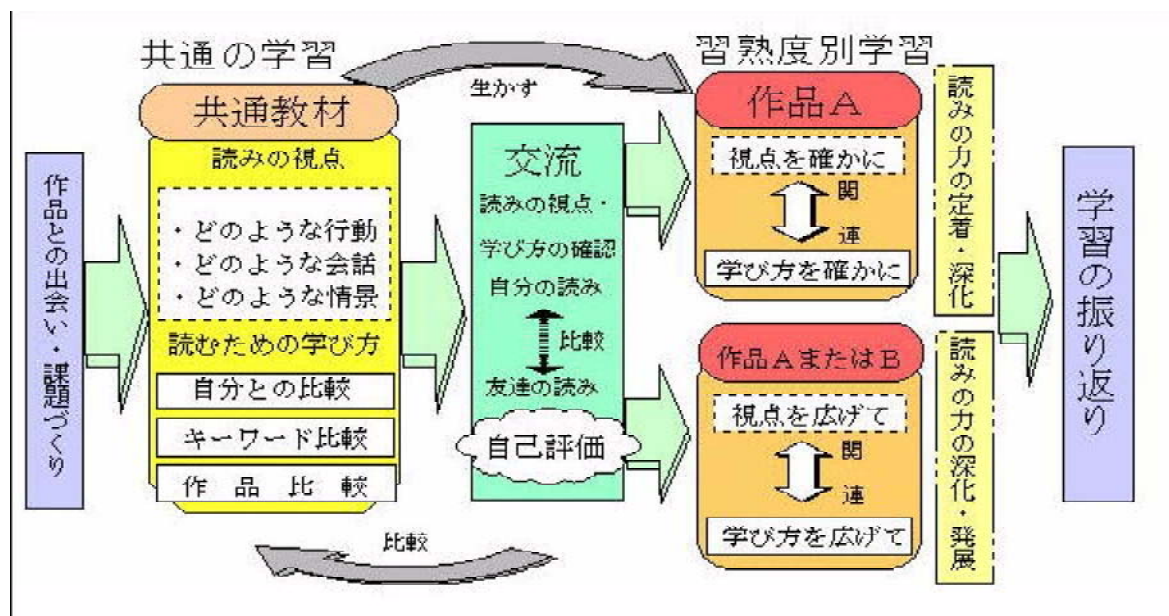


習熟の程度に応じた学習指導は、集団の成員が異質な少人数指導の学習形態として代表的なものである。習熟の程度が違うそれぞれのコースに属する子供は、その程度がほぼ同じレベルであり、また、学習の遅れやつまずき、発展的な学習内容への対応などについても同じような傾向があるといえる。その意味で、子供の資質や能力の習熟を図る場合に効果的な学習形態である。子供がこれまでに身に付けた能力を駆使しながら主体的に学習し、「読むこと」の力を更に高めていくためには、共通の学習を通して身に付けた「読むこと」の力を、それぞれの子供の程度に応じて、それを生かすことのできる学習活動を行うことが必要がある。つまり、学級における集団学習で共通に学んだ内容を生かしながら、習熟の程度に応じた少人数指導によって定着を確実なものにしたり、発展的な内容の学習を行ったりする必要があるのである。このことを図に示すと下のようになる。



【「読むこと」の領域における習熟度別学習の単元構想】

- ・ 「読むこと」領域における教材開発の視点

共通の課題設定ができるような複数の作品を選定し追求することで、対象への見方・考え方が高まり、成就感・満足感を感じることができるようになる。

子供が、多様な視点から内容を読み取ることができるもので、交流の必然性を生み出し、作品の表現を味わったり作品のテーマを読み深めたりすることができるもの。

子供の興味・関心や習熟の程度に応じて課題別、習熟度別などの多様な学習形態の展開が可能なもの。

- ・ 「読むこと」の領域における習熟度別学習のコース分けの基本的な考え方と手順

ノート、ワークシート等を振り返る自己評価を行い、それまでの自分の読みの深まりや課題について意識することができるようにする。

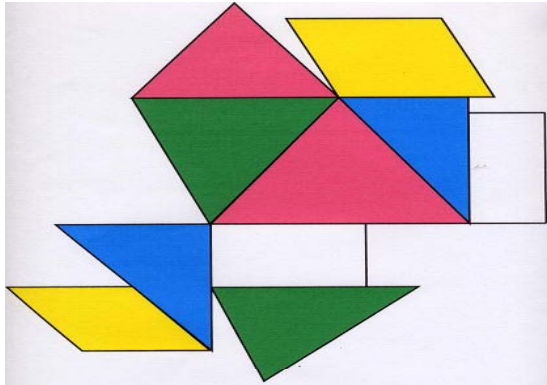
習熟度別学習コースのねらいと学習内容、学習方法について説明する時間を設け、自己評価結果に照らしてコースを選択することができるようにする。

学習への期待感をもって、学習コース決定できるよう適切なコース選択の助言をする。

算数科の実践から（第5学年題材「図形の面積」の学習より）

題材導入時におけるゲーム化による学習課題提示の工夫

《場所取りゲームの課題》



長方形・正方形・三角形（二等辺・直角など）・平行四辺形の形を設定。

【ゲーム方法】

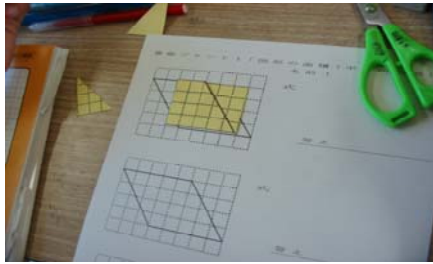
2人組でジャンケンをする。
勝った方が同じ色同士の形の中で広い方を先に選んでいく。
取った面積が広い方が勝ちとなる。

【ゲームの意図】

三角形や平行四辺形の求積方法に対する学習の意欲をもつようにする。
（求積の既習図形は長方形・正方形）
求積方法についての見通しをもつようにする。（既習の形に変形。）

個々の操作活動に対応するための教具の工夫

- ・ 求積方法を見出す際の教具



教具の意図は・・・

場所取りゲームと同じ色の操作用図形を使って図形の合成・分解を行い、ワークシートに貼って、求積公式を学習した既習の図形に変形できるようにする。

1 cm²の正方形の数をもとに、計算の式を考えるようにし、求積公式の発見にもつながるようにする。

【操作用図形とワークシート】

(3) 研究の成果と課題

国語・算数の教研式観点別標準学力検査における領域別通過率の学年ごとの推移

数字は全国通過率100に対する本校児童の通過率

本年度は、学習指導要領の領域または、学力の4観点から子供の実態を示してある。

- ・ 国語

学年	1年 (現2年)	2年 (現3年)	3年 (現4年)	4年 (現5年)	5年 (現6年)	6年 (現中1年)
関・意・態	100	101	96	93	99	100
話す・聞く	101	99	96	97	102	98
書くこと	104	105	97	99	106	100
読むこと	102	101	102	99	98	95
言語事項	102	104	104	102	100	96

- ・ 算数

学年	1年 (現2年)	2年 (現3年)	3年 (現4年)	4年 (現5年)	5年 (現6年)	6年 (現中1年)
関・意・態	105	99	102	94	100	97
数学的な考え方	89	111	104	139	100	100
表現・処理	100	104	105	99	105	96
知識・理解	102	110	106	98	104	98

成果

- ・ 教材・教具の開発についてのとらえ方や手順，留意点を明確にすることで，学習内容や子供の実態に応じた教師の教材・教具の開発及び活用能力が高まった。
- ・ 子供の実態や単元・題材の目標や内容を踏まえた学習形態及び指導形態の工夫・改善を図ったことで，学習の幅が広がり，より深まりのある学習活動が展開できた。子供の学習意欲や見方・考え方も高まり，必要な知識や技能を習得できる子供が増えた。
- ・ 事前に毎時の基礎・基本及び評価の重点を明確にすることで，授業のポイントが明らかになり，個に応じた指導がしやすくなった。また，重点評価項目を入れた評価補助簿の活用により，子供の目標に対する実現状況が把握しやすくなった。それにより，単元・題材の学習の中で子供の現状状況に応じた指導の手立てを取り入れることが可能になり，子供の主体的な学習につながった。

課題

- ・ 三つの視点が個に応じた指導の授業構想に重要なことが明確になった。今後，子供の自己評価に基づいた補充・発展的な学習を進めるための教材等の開発や学習形態，指導方法の工夫・改善等を行う必要がある。
- ・ 基礎・基本の確実な定着をより確実なものにしていくために，他教科との関連を図った授業，教科担任制の導入，他校種や地域・家庭との連携を図った取組も進めていきたい。
- ・ 基礎・基本の定着がどのように高まったか，学力の4観点に即して客観的に分析し，さらに個に応じた指導の充実を図る必要がある。データ化した分析を基に，3年間のまとめを行いたい。

(4) 成果の普及方策

平成15年度に中間まとめの研究公開，平成16年度にはまとめの研究公開を実施し，3年間の研究の成果を関係団体に普及する。

家庭・地域，他校種との連携による学力向上推進も不可欠であるので，次年度は，授業参観を通して，これまでの成果を具体的な子供の姿で見えていただき，お互いの連絡をとりながら，よりよい成果を挙げられるようにしていきたい。

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

有	無
---	---

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

- ・ 野間小学校は，教材開発の視点を明確にするとともに，指導形態や指導過程と内容・教材との関連を重視した研究を進めている。このことから，教材研究の重要性を再認識させ，教職員の指導力向上につながる研究であり，他校の参考になると考える。